

# 大宮退職校長会 会員だより

第64号  
発行責任者  
佐藤 薫

## バトンを受け取って



大宮退職校長会

会長 佐藤 薫

去る5月に開催された定期総会において、藍川会長からバトンを受け取り、会長を引き受けました。

初めに、結成以来本会を運営されてこられた先輩方に敬意を表しますとともに、積み重ねてこられた歴史の重さと責任をバトンに感じています。

さて、令和7年度の船出は決して順風満帆ではありません。今、世界が混沌とし、国内においても諸物価の高騰、そして教職員の退職制度の大きな変更により、本会を取り巻く状況は楽観できるものではありません。

具体的には会員の減少と予算の逼迫です。そのなかで、外圧に抗して

会費を払って入会しているから何かがあるのではなく、ひとりひとりが会の活動に参加しなければ意味がないように思います。

会では会員参加の事業をたくさん設けています。

3月発行の会報の「会員の声」ではご自身の近況を伝え、また仲間の近況を知ることが出来ます。そのほか「市内めぐり」やガイドの案内で歴史を知る「懇親旅行」。懇親旅行では、お昼はアルコールも入って、文字通り懇親の場になります。

同好会活動としては書、絵画、写真、ゴルフ、囲碁があります。どの会でも門を広く開け、入会をお待ちしています。また、年に1回の「美術展」では趣味の集大成として多くの作品を大宮図書館で展示します。

どれも気軽に参加できる活動です。ぜひ、参加してください。待つだけではない、何か始めてください。参加し働きかけてください。

最後に各班の理事のみならず、年3回の理事会にぜひ出席してください。

## 退任あいさつ

前会長 藍川 達雄

コロナに始まりコロナで終わった4年間、会長職を務めさせて頂きました。この間、総会を始め理事会・各事業の中止、あるいはやり方を変えての実施など役員の方々には大変お手数をおかけしました。しかし、平成6年度からはコロナの終息とともに事業の完全復活を掲げ、各事業に取り組んできました。お陰様で諸先輩方により築かれた各部の活動・美術展等従来通り実施できました。その中でも、総会後の懇親会の復活が私にとって一番うれしかったです。

さて、コロナ禍ではあったのですが、理事の方々の負担軽減と時代に呼応した考えから、市内会員の会費納入方法の変更・寒い時期を避けての美術展の開催等の改革もできました。しかし、一方では定年制延長による会員募集時期・方法、諸物価高騰による予算の逼迫と課題が出てきました。このような課題を残し退任していくことに心ぐるし

さを覚えていますが、私はこの4年間で様々なことを学ばせていただきました。一つ目は、困った時の神頼みでなく、仲間頼りです。運営について行き詰まると私は、副会長さん始め多くの役員の方々と相談してきました。さすが多くの修羅場を潜り抜けてきた方々です、良い答えが出てきました。そんなこと当たり前と言われそうですが、よき仲間がいればこそできると学びました。二つ目は、会の存在意義についてです。会の運営に携われたことで見えてきたのは、退職後も仲間との情報交換・共有ができる場であるということです。だからこそ、この会が継続していると気付かせてもらいました。

退任にあたりこれまで私を支えてくれた副会長さんを始め幹事の皆様に心より御礼申し上げます。また、後任の佐藤会長は幹事・副会長としての長い実績もあり、また新たな大宮退職校長会の道を作ってくれることを期待して退任のあいさつとさせていただきます。

令和7年度  
さいたま市  
大宮退職校長会  
総会報告

日時 5月17日(土)  
午後2時  
会場 市民会館おみや  
レイボックホール  
集会室8  
来賓 さいたま市教育委  
員会教育長  
竹居 秀子様  
大宮退職校長会顧問  
江原政雄様  
加々美健一様

渡邊正道副会長の司会により、金子泰久副会長の開会宣言ののち、国歌斉唱、そして昨年度ご逝去された3名の会員を悼み黙とうを捧げ、総会が始まりました。

藍川達雄会長挨拶

昨年度はコロナからの脱却、事業の全面復活を目指し、



すべての事業において、コロナ以前と変わらない活動が実施できました。当たり前のことが当たり前にできる喜びを味わったと感じております。しかし、郵便料金をはじめとする物価の上昇は、本会の会計にも暗い影を落としています。事業予算を削るのではなく、工夫して削れるところを削って予算を立てております。例えば理事会に理事の方が出席していただくことで郵便料金の削減につながります。事業改善にも取り組んでおりますが、定年延長による会員の募集の時期など課題もあり、総会で会員の皆様から多くの声をいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

竹居秀子教育長祝辞

本日、令和7年度さいたま市大宮退職校長会定期総会が開催されますことに心よりお喜び申し上げます。



昨日、私は埼玉県川越で行われました全国都市教育長協議会に参加しておりましたが、その中でさいたま市の子供達の文武両道にわたる活躍を報告させていただきました。これもひとえに皆様方の教育にかける情熱をしつかりと受け継ぎ、今の校長先生方が一生懸命やっていたにいます。努力の賜物と思っております。教育長としての私の責務とミッションは、日本一の教育

都市で日本一幸せな子供を育てることだと思っております。そこで、毎年、3つの方向性を示させていただいております。SSSP(さいたま市スマートスクールプロジェクト)の取組、教育DXを活用した誰一人取り残さない教育の推進、そしてコミュニティスクールに子供達を入れ、学びにつなげていく試み、です。皆様方には、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

戸塚塚晃新入会員挨拶

私は生まれも育ちも大宮で、大宮の教育を受けながらここまで来ましたが、セカンドス



テージでも大宮に携わっていることを嬉しく思っています。今後とも、この大宮退職校長会で、色々学んでいきたいと考えておりますので、他の新入会員共々よろしく願い申し上げます。

その他、本会の江原政雄顧問、加々美健一顧問からもち祝辞をいただき、その後藍川達雄会長を議長として議事に入りました。

本年度は役員改選の時期に当たり、新役員の提案を含め、すべての議案が満場一致で承認されました。詳細は総会要項参照。



【特集】さいたま市教育委員会の取組

## 「幼保小の連携」について

さいたま市教育委員会教育課程指導課

令和3年1月の『令和の日  
本型学校教育』の構築を目指  
して、全ての子どもたちの可能  
性を引き出す、個別最適な学  
びと、協働的な学びの実現（  
「答申」）において、2020  
年代を通じて実現すべき教育  
の姿が示されました。現在、  
文部科学省では、多様な子ど  
もたちを誰一人取り残すこと  
なく育成し、「主体的・対話  
的で深い学び」の実現に向け  
た授業改善等の取組を着実に  
進めています。

このような学びの充実を一  
層確実なものとするための取  
組の一つとして、幼児期の教  
育と小学校教育の充実が挙げ  
られます。とりわけ、生涯に  
わたる人格形成の基礎を培う  
幼児期の教育と、小学校以降  
の教育とを円滑につないでい  
くためには、子どもの成長を  
中心に据え、関係者の立場を  
越えた連携により、接続期の  
充実に取り組むことが重要と  
なります。

や市内の幼児教育施設と連携  
し、接続期の教育の充実に取り  
組んでいます。これまでも  
「幼保小連携教育研修会」「保  
育者小学校等体験研修」「夏季  
保育参観研修」等を通して、  
お互いの教育への理解を深め  
たり、情報を共有したりする  
機会としてきましたが、それ  
らに加え、令和5年度から「架  
け橋期のカリキュラム」の協  
働作成に取り組んでいます。  
「架け橋期のカリキュラム」は、  
「幼児期の終わりまでに育つ  
てほしい姿」を手がかりとし  
て、育成を目指す資質・能力  
を視野に入れながら作成した  
5歳児から小学校1年生の2  
年間を対象としたカリキュラ  
ムです。令和6年度までに市  
立全ての小学校が作成しまし  
た。令和7年度は、作成した  
カリキュラムに基づき、子ど  
もたちに関わる大人同士の連  
携・協働の輪を広げ、全ての  
子どもたちのウェルビーイン  
グを保障する  
教育を展開し  
ていきます。



## シリーズ

### 私のときめき ライフ⑦

#### 太極拳の免状に挑戦

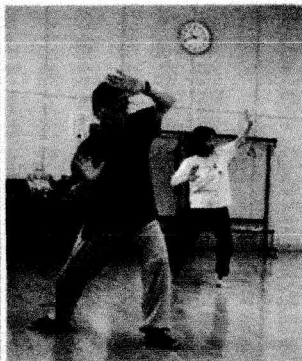
渡邊 朋久

5月で70歳になった。5年  
毎に更新される生命保険の掛  
け金が跳ね上がり、車に高齢  
者マーク（クローバーマーク）  
を付ける努力義務が発生した  
が、おかげさまで体はまだ元  
氣だ。退職して二つ目の職場  
である学童保育では、初めて  
聞く子どもの言葉にドキマギ  
しているし、息子がしばしば  
送ってくる孫の動画にワクワク  
している。趣味の世界でも  
いくつかの目標にチャレンジ  
中で、生活のどこを切り取っ  
ても金太郎飴のようにそれな  
りにとぎめいている顔が出て  
くると思うのだが、今日はそ  
の中から2年前に始めた太極  
拳のことを書きたいと思う。  
現役のころからやってみた  
いと思っていたのだが、一昨  
年たまたま自治会の回覧に入  
っていた公民館のチラシで太  
極拳教室のことをみつけた。

妻と一緒に楽しめるものを探  
していたところだったので、  
これならと思い早速二人で覗  
いてみた。

太極拳のモットーは比べな  
い、競わないこと。40代から  
80代くらい14、15人の参加  
者が師範を中心にそれぞれの  
技量でゆつたりと動いていた。  
初めて行った私たちも、真ん  
中のみんなが見える位置に入  
れてもらっただけで、これと  
いった指導もなく「まあ、や  
ってみましょう」と仲間に入  
れられてしまった。以来見よ  
う見まねで一緒に動くこと数  
か月、だんだん動きの意味が  
分かってくると、面白くなる  
と同時に、すごくハードな運  
動であることも分かってきて、  
みんなと一緒にいい汗がかけ  
るようになってきた。

そこでこの春、70歳になる  
のを機に免状に挑戦してみた。  
最初の免状（初伝という）は  
細かいところは違ってもいい  
から、とにかくつかえずに通  
せば合格ということ、ま  
あ何とかなるだろうと高をく  
くっていた。ところが普段は  
みんな一緒に緩やかな音楽を  
かけてやっているものを、審



査では一人でしかも音楽なし  
でやると言われてしまった。  
静まり返った中で仲間の視線  
を一身に受けながら演技する  
緊張感はまさに「ハンパねえ  
」。この歳になつて久々の  
膝が震える経験だった。  
でもなんとか審査は合格。  
免状は6段階あつて、初伝  
を取ってから最高位の師範を  
受験するまで最短でも10年か  
かる。順調にいつても80歳  
冥土の土産にどこまで登り切  
れるか、まだまだ私のときめ  
きライフは続きそうである。

## 専門部の活動

今年度の第1回各専門部会が6月中旬に開催され、次のようなことが話し合われた。

### 広報部

今年度は「会員だより」64号・65号を発行する。そこで、掲載する「懇親旅行」「史跡めぐり」「美術展」等の行事を誰が担当するのか分担を決めた。次に、会長交代に伴い、前藍川会長から「退任の言葉」、また「私のときめきライフ」「さいたま市教育委員会の取組」についてまとめてもらうことにした。

〈部員〉入江知彦 ○松田泰成  
小川 啓 星美千也 福島博子 富田英雄 前島一夫  
〈幹事〉中山正一 眞嶋廣久  
新井栄司 (○印は部長)  
※担当副会長・佐藤博志  
福利厚生部

今年の「懇親旅行」は10月10日、東京台東区。上野と「浅草」を結ぶ通りに点在する見どころ(葛飾北斎の墓所、道具街など)を散策する。さらに洋食店での懇親会を



計画している。

「史跡めぐり」は11月28日、史跡がたくさん残っている城下町「岩槻」を訪ねる。地元講師の案内で岩槻藩の藩校「遷善館(せんきようかん)」などを巡る歴史散歩を計画している。

〈部員〉河原塚順司 須田義博  
渡部隆男 外園倫生 大澤淳 金子泰久 須田 博  
〈幹事〉秋山 隆 ○金子有哲  
関根俊幸 (○印は部長)  
※担当副会長・橋本 栄  
研修部

今年度は「児童生徒の不登

### ようこそ!

### 新入会員の紹介

昨年度に引き続き、定年延長の関わりがありました。が、今年度は大宮退職校長会に5名入会されました。フレッシュな感覚とお力を、本会の発展のためにお貸しいただけますようお願いいたします。

小熊 誠 戸野塚晃  
小林正美 小林正樹  
宮城裕毅 (敬称略)

校問題を考える」というテーマで10月23日にさいたま市総合教育相談室を訪問し、さいたま市の児童生徒の不登校の現状と取組や不登校等児童生徒支援センターなどの講話を頂き、研究協議を行う。

この研修については例年通り、12月の理事会において報告することを予定している。

〈部員〉○桑原 昇 坂井俊夫  
関 修 菊地 豊 中村秀男 柴崎邦夫 石田耕一  
〈幹事〉菊池悦夫 駒宮寿夫  
(○印は部長)  
※担当副会長・渡邊正道

### 令和7年度の役員

退任

会長 藍川達雄  
副会長 金子泰久

幹事 溝口正己・矢内 洋

須田 博・関根 廣

顧問 黒田春海・竹本昭剛  
江原政雄・加々美健一

藍川達雄

会長 佐藤 薫(新)

副会長 渡邊正道・佐藤博志

(新)・橋本 栄(新)

監事 関根 廣(新)・須田 博(新)・中山 亮

### 計 報

慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

唐木 昭氏(94歳)

令和7年2月21日逝去

幹事(新)鯨井幹夫・青木 洋

松井 聡・保高 智

### ◆幹事の事務分担

総務 原田守康・鯨井幹夫

青木 洋・松井 聡

会計 渡邊朋久・島村 暁

保高 智

広報誌の発行 新井栄司

中山正一・眞嶋廣久

各種配付物 中山正一

懇親旅行・史跡めぐり

金子有哲・秋山 隆

関根俊幸

### 専門部会

〈広報部〉新井栄司・中山正一

眞嶋廣久・佐藤博志副会長

〈福利厚生部〉金子有哲・秋山 隆・関根俊幸・橋本 栄副

会長

〈研修部〉菊池悦夫・駒宮寿夫

渡邊正道副会長

美術展の開催

柴崎邦夫・原田守康・鯨井 幹夫・青木 洋・松井 聡

渡邊朋久

### 新入会員募集

原田守康・鯨井幹夫・青木 洋・松井 聡 他

### 編集後記

今年も早くから記録的に暑い日が続き、外出制限も出されるほどでした。この天候では、大きな話題となった「令和の米騒動」も、まだまだ続いていくのではないかと気が気ではありません。

ところで、今年は1970年以来55年ぶりに「2025日本国際博覧会(大阪・関西万博)」が開かれています。猛暑の中、たくさんの方々が意外と涼しい大屋根リングの下に避難しているそうです。大屋根リングは、一周約2km、「最大の木造建築物」としてギネス世界記録に認定されました。10月13日閉幕ですが、一見の価値はありそうですね。会員の皆様の周りでも、いろいろな変化があるかと思

います。小さな発見、小さな一歩。ぜひ皆様のそんな思いを、次号お持ちしています。

〔編集委員〕佐藤博志(副会長)  
新井栄司・中山正一・眞嶋廣久